

つきたい力

- ・習得した知識をどのように活用できるかを考える力
- ・考えたことを記述したり、適切に答えたりする力
- ・学んだことをふりかえり、まとめる力

取組みの概要・ポイント

- ①つきたい力をつけるために、仲間との対話や自分の考えを記述する機会を授業内（単元内）に必ず設定する。
- ②言語活動の中で生徒が意識することと教員が意識することを明確にし、全教科で統一して実践する。
- ③活動時には、教材となる良質な資料を用いるために、学校図書館を活用する。

①言語活動マトリックス表

②『学びにつながる谷中プロセス』（谷プロ）を意識した授業デザイン

対話や、自分の考えを記述する時間を確保するために、大阪府情報活用能力ステップシートを基に「言語活動マトリックス表」を作成し授業づくりに挑んだ。授業者と参観者が授業の意図を共有できる点、生徒の活動量を増やすという意識が授業者に保てる点がメリット。

言語活動の中で、生徒が意識して取り組む手順を『谷プロ』として明示し、全生徒・全教員で共有した。『谷プロ』は全教室に掲示し、いつでもどこでも確認できる。

『学びにつながる谷中プロセス』

- ①自分の考えや思いを相手に伝える。
- ②相手の話を傾聴し、自分との共通点・相違点を見つける。
- ③見つけた答えや考えたことを自分の言葉でまとめ、表現する。
- ④問いと答えを一致させる。

「なぜ？～からだ。」 「～とはどういうこと？～ということ。」
 「どう思う？～と思う。」

※生徒は『谷プロ』の4項目を意識し、教員は4項目を意識させられるような授業をデザインする。

[1] 「対話」から「書く活動」への接続を強化する

以下の①⇒②を必須の流れとし、更に③④を続けることをめざす。

- ①ペアに対して自分の考えを話し、相手の考えを聞く。
- ②自分の考えを自分の言葉でまとめる。
- ③自分がまとめたものをペアに話す。
- ④更に相手にコメントを返す。or ふりかえりシートに記入する。

[2] 思考を可視化する

- ①一貫した問いを取り入れる。
 ・ふりかえりシートの項目 ・発問 等
- ②学びや思考を言語化するひと手間を加える。
 ・チャート化 ・キーワードマップ 等
- ③答え方を鍛える活動を取り入れる。
 ・定義を求めている ・理由を求めている 等
 ・解を求めている 等

③考えの根拠に学校図書館資料を活用

様々な活動の中で、情報の正確性や種類の豊富さに長けた学校図書館資料を用いて、まとめたり発表したりする授業を実践した。



[言語活動マトリックス表]

[学びにつながる谷中プロセス]

●単元計画と評価計画

次	時	ねらい	めあて	主な学習活動	主な評価規準 (評価方法等)	言語活動 マトリックス表
1	1	不定詞(名詞的用法)の構文の用法を理解する。	将来の夢短冊を書くことができる。	夢を実現するために必要になることを短冊に書く	不定詞(名詞的用法)を用いた文章を理解し、正しく英文を書ける。(知・技)	1 2 26
	2	不定詞(名詞的用法)が用いられた文章の内容を理解する。	新聞コラムを作ることができる。	教科書本文を読んで理解した内容の記事を書く。	不定詞(名詞的用法)を用いた文章の読み、理解したことを記述している。(思・判・表)	1.2.8 12 26

取組みを通しての子どもの変容

生徒を対象とした授業アンケートを各学期で実施。以下の2点に顕著な変容が見られた。

- ①「学級の友だちとの考えの交流を通して、新たな考えや疑問をもつことができます」の肯定的回答
- ②「ふだん、1日に教科書以外の本をどれぐらい読むか」について「全く読まない」という回答

前年度77.1% ⇒ 今年度90.0%に上昇。
 前年度47.0% ⇒ 今年度26.1%に減少。



谷プロ紹介

[指導案一部抜粋]